



輸出先のスーパーで陳列されている「さやいんげん」
【オランダ・アムステルダム、2007年10月6日】

写真1、2: ケニア産(小口パック) Euro 1.59/150g (US\$ 15.82/kg)
写真3、4: ケニア産以外(量り売り、原産地表示なし) Euro 1.95/ポンド(US\$ 6.40/kg)



写真5:
輸出先のスーパー(小店舗)で陳列されている
ケニア産「さやいんげん」
【イギリス・ロンドン、2007年10月3日】



6



7

写真6、7

ケニア園芸作物開発公社 (HCDA) が保有するパックハウス(保冷库・選別包装作業場)。設備を持たない中小規模輸出業者のために貸与。訪問時点で、約20の業者が本施設を使っているとのことであった。写真は業者が本施設を選別包装作業場として利用しているところ。(本文「囲み1.2」及び「囲み1.3」参照)

【ケニア・ナイロビ、2007年10月12日】



8

写真8

ケニアの大手輸出業者・事務所内に展示されている輸出産品 (EU向け「さやいんげん」等)

【ケニア・ナイロビ、2007年10月11日】



写真9 農家グループの圃場(さやえんどう等)
写真10 収穫期の「さやえんどう」を開いたところ
【ケニア・ニャンダルア県、2007年10月15日】



写真11
大手輸出業者に「さやいんげん」「さやえんどう」を納める農家グループが出荷前・自主検査の段階で除去した不良品(さやえんどう)。出荷前に数%であった不良率が、納品後の輸出業者選別の段階ではしばしば40%にもなるという。品質判定の仕組みが不透明。
【ケニア・ニャンダルア県、2007年10月15日】



写真12
「さやえんどう」を村のブローカーに売る農民(量り売り)。ブローカーは自転車と簡単なハカリを持っている。ブローカーは地域のトレーダーに再販し、1-2割のコミッションをとる。
【ケニア・ニャンダルア県、2007年10月15日】



エチオピアの大手輸出業者が保有する施設。輸出品は「いんげんまめ」(サンプル:写真15)。原料貯蔵(コルゲートサイロ、6,000トンx6基)のほか、荷受・精選・グレーディング(サイズ分け)・色彩選別等で構成される。施設内は塵埃がたちこめ(写真13)、機械処理後に多くの作業員による手選別の最終工程がある(写真14)。設備性能と輸出品の品質に課題。

【エチオピア・ナザレ県、2007年10月20日】



エチオピアのスーパーで売られている「いんげんまめ」と「さやいんげん」
 写真16: エチオピア産「さやいんげん」(プラスチックケース・フィルムラップ)

E.Bir 4.00/500g (US\$ 0.89/kg)

写真17: エチオピア産「いんげんまめ」(ポリバッグ)

E.Bir 6.50/500g (US\$ 1.44/kg)

【エチオピア・アジスアベバ、2007年10月22日】



写真18: ドバイの青果物卸売市場
 国産及び輸入品の生鮮野菜・果実がボックス
 (5kg)単位で売られている。

イラン、オマーン、エジプト等からの輸入「さやいんげん」が多数置かれてあった。これらは、輸入後、この卸売市場経由で小売(スーパー含む)へ流れているとみられる(価格については1.7節参照)。ケニア産は置かれてなかった。卸売市場を経由しない輸入業者 - スーパーのラインが主流と考えられる。

【アラブ首長国連邦・ドバイ、2007年10月27日】